

## [69] 哲學年報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/16930>

---

出版情報：哲學年報. 69, 2010-03-01. 九州大学大学院人文科学研究院  
バージョン：  
権利関係：

谷隆一郎教授 定年退職記念特輯



谷 隆一郎 教授 近影

谷 隆一郎教授 略歴

生年月日 昭和二十年十二月十四日生

本籍地 兵庫県

昭和四四年六月 東京大学工学部合成化学科卒業

昭和四八年三月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了

昭和五一年三月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位修得退学

昭和五四年九月 九州大学文学部講師（哲学・哲学史講座）

昭和五八年九月 九州大学文学部助教授（同右）

平成 五年四月 九州大学文学部教授（同右）

平成一〇年四月 九州大学総長補佐（平成一一年三月まで）

平成一〇年七月 九州大学評議員（平成一六年三月まで）

平成一二年四月 九州大学大学院人文科学研究院教授（哲学講座）

平成一五年六月 大学評価・学位授与機構大学評価委員会評価員（平成一七年六月まで）

平成二一年三月 九州大学大学院人文科学研究院を定年により退職

平成二二年四月 九州大学名誉教授

その他、北海道大学、東京大学、信州大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、山口大学、長崎純心大学にて集中講義を担当

谷 隆一郎教授 業績目録

著書

- 『人倫』 1 共著 以文社 一九七八年一月
- 『西洋哲学史』 共著 以文社 一九七九年二月
- 『自然、倫理学的考察』 共著 以文社 一九七九年一〇月
- 『近代人の原像、ルネサンスの倫理思想』 共著 弘文堂 一九八〇年一二月
- 『実存と倫理』 共著 以文社 一九八三年三月
- 『古代キリスト教の教育思想』（『教育思想史』Ⅱ） 共著 東洋館出版社 一九八四年四月
- 『キリスト教的プラトン主義』 共著 創文社 一九八五年一〇月
- 『人間とは何か』 共著 九州大学出版会 一九八六年六月
- 『中世における知と超越——思索の原点をたずねて——』 共著 創文社 一九九二年三月
- 『信と知』 共著 慶應通信 一九九三年一〇月
- 『アウグスティヌスの哲学——神の似像の探究——』 単著 創文社 一九九四年二月
- 『自然法における存在と当為』 共著 創文社 一九九六年九月
- 『モラル・アポリア、道德のディレンマ』 共著 ナカニシヤ出版 一九九八年二月
- 『自然法と宗教』Ⅰ 共著 創文社 一九九八年一月
- 『教養の源泉を訪ねて、古典との対話』 共著 創文社 二〇〇〇年三月
- 『東方教父における超越と自己——ニユッサのグレゴリウスを中心として——』 共著 創文社

『自然法と宗教』Ⅱ

単著 創文社 二〇〇〇年 六月

『自然法と文化』

共著 創文社 二〇〇一年 六月  
共著 創文社 二〇〇四年 七月

『宗教と文化——キリスト教文化の研究——』

共著 ノートルダム清心女子大学

キリスト教文化研究所 二〇〇五年 三月

『神秘の前に立つ人間——キリスト教東方の靈性を拓く——』

共著 新世社 二〇〇五年 八月

『人間と宇宙的神化——証聖者マクシモスにおける自然・本性のダイナミズムをめぐって——』

単著 知泉書館 二〇〇九年 二月

翻訳書

ニユツサのグレゴリオス『雅歌講話』

共訳 新世社 一九九一年 二月

同『モーセの生涯』（『キリスト教神秘主義著作集』1）

教文館 一九九二年 二月

P・エフドキーモフ『神の狂おしいほどの愛——東方キリスト教の靈性をめぐって——』

共訳 新世社 一九九九年 一月

同『キリスト者の生のかたち』（『エイコーン』第二四号、第二五号）

共訳 新世社 二〇〇一年 二月

『砂漠の師父の言葉』（ミーニユ・ギリシア教父全集第六五卷）

共訳 知泉書館 二〇〇二年 七月

アウグスティヌス『詩編注解（二）』（『アウグスティヌス著作集』一八一Ⅱ）

共訳 教文館 二〇〇六年 三月

『フィロカリア』Ⅲ

新世社 二〇〇六年 九月

P・デインツェルバツハー編『修道院文化史事典』

共訳 八坂書房 二〇〇八年 一月

論文

選択の根拠について——トマス・アクィナスの意志論に関する一考察——

『倫理学年報』第二四集 一九七五年 三月

内なる言葉と徳——トマス・アクィナスにおける善の問題をめぐって——

『倫理学年報』第二六集 一九七七年 三月

行為と善についての一試論

『中世思想研究』XX 一九七八年一〇月

行為成立の問題性

『人倫』1 (以文社) 所収 一九七八年一月

アウグスティヌスの自然観——知と生成の構造についての序説——

『自然』(以文社) 所収 一九七九年一〇月

プラトン主義の潮流——ルネサンスの底流を探るための概観——

『近代人の原像』(弘文社) 所収 一九八〇年一二月

「人間で在ること」即ち「アレテーの成立」について——ニュツサのグレゴリオスの場合——

『哲学論文集』第一七輯 一九八一年 九月

時間と志向——アウグスティヌスにおける精神の発見——

『実存と倫理』(以文社) 所収 一九八三年 三月

クリュストモス

『古代キリスト教の教育思想』（東洋館出版社）所収

一九八四年 四月

自己認識の場をめぐって

『中世思想研究』XV VII

一九八四年一〇月

神の似姿の知と再形成をめぐって

『哲学年報』第四四輯

一九八五年 二月

感覚と記憶の問題——アウグステイヌスの意志論（その一）

『哲学論文集』第二二輯

一九八五年 九月

選択と自己——ニュツサのグレゴリオスにおけるプロアイレシスとアレテー——

『キリスト教的プラトン主義』（創文社）所収

一九八五年一〇月

アウグステイヌスの告白

『人間とは何か』（九州大学出版会）所収

一九八六年 六月

創造と原罪についての一試論——アウグステイヌスの意志論（その二）——

『哲学年報』第四七輯

一九八八年 二月

荒野の師父たちの言葉と生をめぐって——カツパドキアの三つの光——（二）

『エイコーン——東方キリスト教研究——』創刊号

一九八八年一二月

荒野の師父たちの言葉と生をめぐって（二）

『エイコーン』第二号

一九八九年 六月

アレテーの構造をめぐって——ニュツサのグレゴリオスにおける知と生成の問題——

『哲学論文集』第二五輯

一九八九年一二月

感覚知の意味と根底——アウグステイヌスの存在探求に即して——

『哲学年報』第四九輯

一九九〇年 三月

信と知の探求——アレクサンドリアのクレメンスに依拠して——（その一）

『エイコーン』第四号

一九九〇年 六月



信と知の探求（その二）

『アイコン』第六号

一九九一年 七月

エペクタシスとエクレシヤ——ニュツサのグレゴリオス『雅歌講話』を中心として——

『中世における知と超越』（創文社）所収

一九九二年 三月

アウグステイヌスにおける悪の問題——「自己・人間の成立」の機微をめぐって——

『哲学年報』第五一輯

一九九二年 三月

信の構造——アウグステイヌス『三位一体論』第一三巻を中心として——

『哲学年報』第五二輯

一九九三年 三月

教父における神秘——神（＝存在）の顕現・受肉のかたちをめぐって——

『中世思想研究』XXXV

一九九三年 九月

自己と超越——教父における信と知——

『信と知』（慶應通信）所収

一九九三年一〇月

受肉神化についての序説（一）

『アイコン』第一三号

一九九五年 五月

自己とペルソナ——存在の現成のかたちをめぐって——

『哲学論文集』第三二輯

一九九五年 九月

受肉と神化についての序説（二）

『アイコン』第一五号

一九九六年 七月

東方教会における自然・本性と超越——ニュツサのグレゴリオスを中心として——

『自然法における存在と当為』（創文社）所収

一九九六年 九月

受肉と神化についての序説（三）

『アイコン』第一八号

一九九七年一二月

人生に究極の意義はあるのか

『モラル・アポリア』（ナカニシヤ出版）所収

一九九八年 二月

不断の創造と意志

『哲学年報』第五七輯

一九九八年 三月

- 存在の次元における自由の問題——知と行為の根底—— 『西日本哲学年報』第六号 一九九八年一〇月
- ニュツサのグレゴリオスにおける宗教と人間——『雅歌講話』の存在論的ダイナミズムに即して—— 『自然法と宗教』（創文社）所収 一九九八年一二月
- 受肉と神人性についての一考察——内なるキリストの発見に向かつて—— 『聖カタリナ大学キリスト教研究所紀要』第四号 一九九九年三月
- 神を宿しうるものとしての人間——ニュツサのグレゴリオスにおける知と超越—— 『教養の源泉をたずねて』（創文社）所収 二〇〇〇年三月
- 自然・本性の開かれた構造——受肉・神人性の指し示すところ—— 『自然法と宗教』（創文社）所収 二〇〇一年六月
- 人とコスモロジー——証聖者マクシモスの意志論・序説—— 『エイコーン』第二四号 二〇〇一年二月
- ギリシア教父における自然・本性と人間に関する倫理学的総合研究 平成二二年度～二四年度科学研究費補助金基盤研究（C）（二）研究成果報告書 二〇〇三年三月
- 自己存在と悪の問題——教父の言葉と生の指し示すところ—— 『西日本宗教学雑誌』第二五号 二〇〇三年三月
- 存在の現成のダイナミズム——受肉・神人性の教理と愛智との関わり—— 『パトリスティカ——教父研究——』第七号 二〇〇三年五月
- 無化と超越——ニヒリズムの超克とその動的なたち—— 『哲学年報』第六三輯 二〇〇四年三月
- 自然・本性の変容と身体性——証聖者マクシモス研究（二）——

- 人間と神化の問題——証聖者マクシモスにおける自然・本性のダイナミズムを巡って——  
『エイコーン』第二九号 二〇〇四年 七月
- 『自然法と文化』（創文社）所収 二〇〇四年 七月
- 『宗教と文化』所収 二〇〇五年 三月
- 情念と自己変容——証聖者マクシモスを中心として——
- 自然・本性（ピュシス）の開花への道——証聖者マクシモスにおける神化（テオーシス）の文脈をめぐって——  
『パトリスティカ』第九号 二〇〇五年 三月
- 人間本性の展開・成就と意志——証聖者マクシモス研究（二）——  
『エイコーン』第三二号 二〇〇五年 七月
- エイコーンとホモイオーシス——証聖者マクシモスにおける神への道行き——  
『エイコーン』第三三号 二〇〇五年 二月
- ピュシスとプシュケーの本源を問う——西欧近代化と自己との超克——  
『UTCP研究論集』第四号 二〇〇六年 三月
- 人間と自然・本性のダイナミズム——東方・ギリシア教父の倫理学的総合研究——  
平成一五年度〜一七年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書 二〇〇六年 三月
- An Essay on the Dynamism of Human Being and the Nature (physis) ——In the Context of Theosis in  
St. Maximus the Confessor. Patristica, Supplementary Volume 2, 2006
- エクレスシアの諸相とその全一的かたち——証聖者マクシモス研究（三）——  
『エイコーン』第三三号 二〇〇六年 七月

神人的エネルギーと人間——証聖者マクシモス研究（四）——

『エイコーン』第三五号 二〇〇七年 七月

「在ること」と「善く在ること」とのダイナミズム——脱自的経験から、その根拠へ——

『哲学論文集』第四三輯 二〇〇七年 九月

アレーテの成立と神人的エネルギー——脱自的な愛の根底——

『エイコーン』第三六号 二〇〇七年 二月

身体の聖化——宗教哲学の一視点——

『宗教研究』第三六一号 二〇〇九年 九月

事典および辞典（分担執筆）

『倫理思想辞典』 山川出版社 一九九七年 三月

『哲学・思想辞典』 岩波書店 一九九八年 三月

『岩波キリスト教辞典』 岩波書店 二〇〇二年 六月

『現代倫理学事典』 弘文堂 二〇〇七年 二月

『宗教学文献事典』 弘文堂 二〇〇七年 二月

書評

自己と超越——増永洋三著『フランス・スピリチュアリスムの哲学』（創文社、一九八四年）によせて——

『創文』一一 一九八四年 二月

『アウグスティヌス著作集』一六 創世記注解一（片柳栄一訳、教文館、一九九四年）

『本のひろば』九 一九九四年 九月

超越（＝神）の顕れる時処、関根清三著『旧約における超越と象徴——解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会、

一九九四年 九月 『福音と世界』

『アウグスティヌス著作集』十八/I、詩編注解（一）（今義博、大島春子、堺正憲、菊地信二訳、教文館、

一九九七年 七月 『本のひろば』七

一九九七年）坂口ふみ著『〈個〉の誕生 キリスト教教理を作った人びと』（岩波書店、一九九六年）

『中世思想研究』XXXXX 一九九七年 九月

聖書の証言と、その指し示すところ、『聖書の言語を超えてソクラテス・イエス・グノーシス』（宮本久雄、山本巍、

『エイコーン』第一九号 一九九八年 七月

大貫隆著、東京大学出版会、一九九七年）を読んで秋山学著『教父と古典解釈——予型論の射程——』（創文社、二〇〇一年）

『中世思想研究』XLV 二〇〇四年 九月

P・ブラウン著『アウグスティヌス伝』上・下（出村和彦訳、教文館、二〇〇四年）

『本のひろば』二 二〇〇五年 二月

加藤信朗著『アウグスティヌス《告白》講義』（知泉書館、二〇〇六年）を読んで——魂の神への道行き——

『宗教と文化』二五 二〇〇七年 三月